

## 2023年度 東洋大学 IR ニュースレター Vol.2 (通算第11号)

大学の志望理由・身につけたい力・将来の進路・不安なこと  
—「2023年度新入生アンケート調査」結果分析



東洋大学  
学長・IR室長 矢口悦子

2023年5月8日より、新型コロナウイルス感染症は、ようやく5類相当の対応ができるようになりました。とはいえ、まだまだその影響は残っており、新入生の回答はほとんどの項目において昨年度と同様の結果となりました。今回のニュースレターでは、第1部と第2部、そして留学生による回答結果で大きな違いがあった点を紹介しています。例えば、第2部の学生たちの進学動機における経済的な意味は、本学が第2部を維持している意味と関わり、強く認識しておきたいと思います。また、将来展望において、留学生の43.4%が大学院進学を希望していること、自営などの就職への希望が少数ながら日本人学生の2倍であることなどが明らかになりました。キャンパスライフにおいて第1部、第2部、留学生という学生の多様性が相互の交流に活かされ、お互いに刺激し合いながら学びを深めてほしい、と改めて思いました。教職員も、日々の授業運営や課外活動の機会提供において、この結果を踏まえた教育や学生支援を一層充実してまいりましょう。

### 2023年度・2022年度調査概要

実施対象：4月入学の学部1年生 実施方法：Webアンケート(ToyoNet-ACE)

#### 年度別回答者数/回答率

	実施期間	対象者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
2023年度	2023年4月14日～5月8日	7,614	4,137	54.3
2022年度	2022年4月15日～5月9日	7,403	4,064	54.9

分析担当：IR室 教授 劉文君

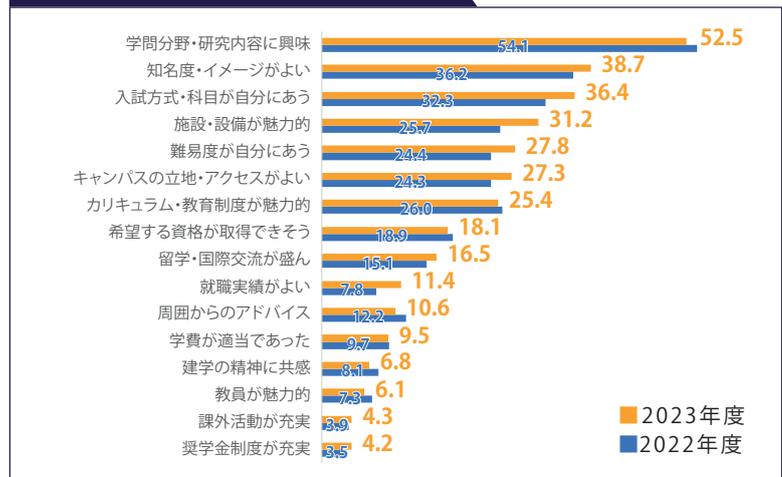
分析の目的：新入生の特徴および異なる学生類型による多様なニーズや志向を把握するために、「大学の志望理由」「身につけたい力」「将来の進路」「不安なこと」について、今年度と昨年度、第1部(3,744人)と第2部(393人)、日本人学生(4,015人)と留学生(122人)との差異を分析する。また「不安なこと」の変化、および「授業への不安」と他の不安要因との相関について調べる。

# 1. 大学の志望理由

## ① 昨年度との比較

昨年度と比べ、多数の項目で選択率が増加しており、全体として大学への志望はよりポジティブな傾向にある。選択率が2割を超える項目の中で、「知名度・イメージがよい」「入試方式・科目が自分にあう」「施設・設備が魅力的」「難易度が自分にあう」「キャンパス立地」など多数の項目が微増である一方で、「学問分野・研究内容に興味」「カリキュラム・教育制度が魅力的」が微減となっている。

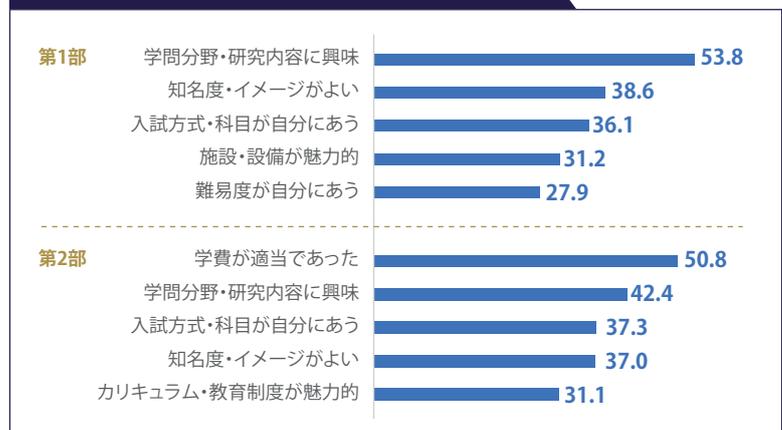
図1 大学の志望理由(%・2023年度高い順)



## ② 第1部と第2部との比較

第1部と第2部それぞれの上位5項目を見ると、「学問分野・研究内容に興味」「知名度・イメージがよい」「入試方式・科目が自分にあう」の3項目が共通している。他の2項目は、第1部は「施設・設備が魅力的」「難易度が自分にあう」であるのに対し、第2部では最も高い割合であり5割を超えている「学費が適当であった」と「カリキュラム・教育制度が魅力的」である。

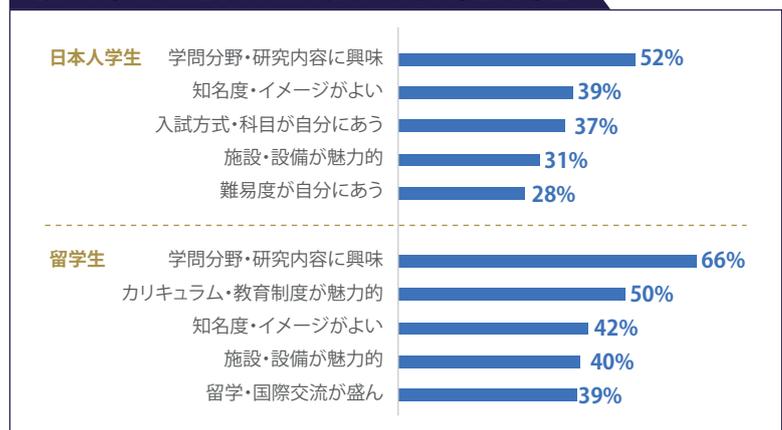
図2 大学の志望理由の上位5項目(%・第1部/第2部)



## ③ 日本人学生と留学生との比較

日本人学生と留学生、それぞれの上位5項目では「学問分野・研究内容に興味」「知名度・イメージがよい」「施設・設備が魅力的」の3項目が共通している。他の2項目は、日本人学生は「入試方式・科目が自分にあう」「難易度が自分にあう」であるのに対して、留学生は「カリキュラム・教育制度が魅力的」「留学・国際交流が盛ん」である。

図3 大学の志望理由のトップ5位(%・日本人学生/留学生)

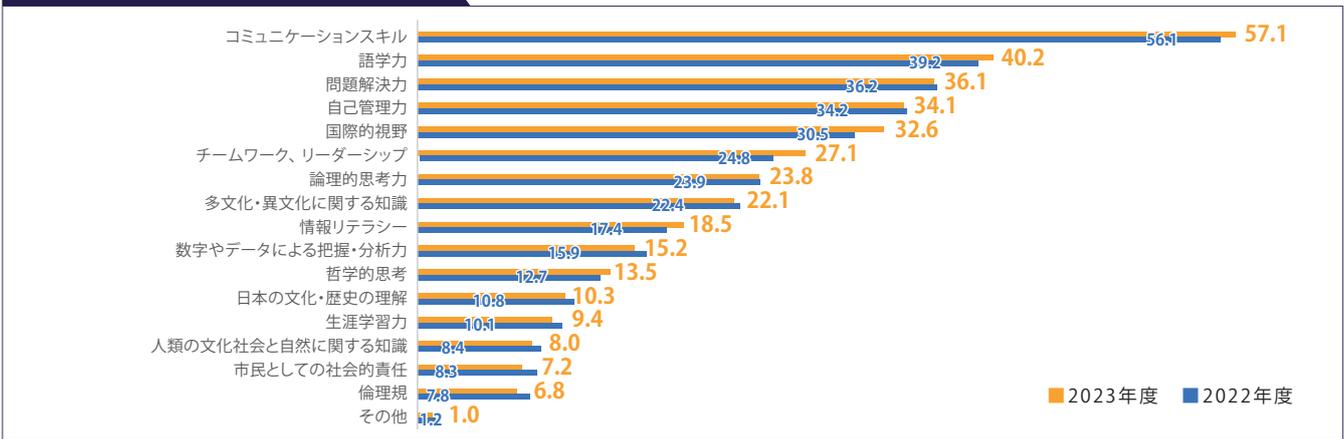


# 2. 身につけたい力

## ① 昨年度との比較

設問「自分の将来のために、4年間でどのような力を身につけたいですか(優先順位の高いものから3つまで選択)」に対する上位5項目は「コミュニケーションスキル」「語学力」「問題解決力」「自己管理能力」「国際的視野」であり、昨年度と同様の結果であった。「コミュニケーションスキル」「語学力」「国際的視野」「チームワーク、リーダーシップ」「情報リテラシー」「哲学的な思考」の項目での選択率は微増している。

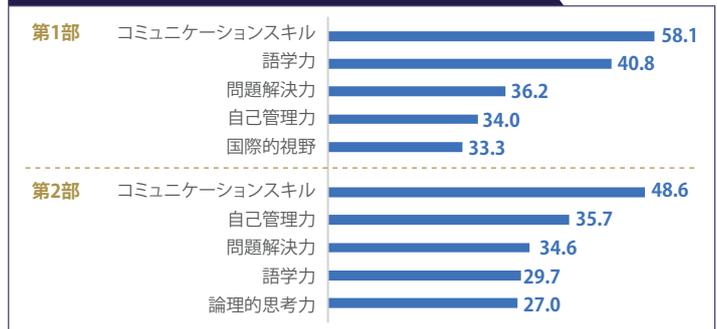
図4 身につけたい力(%・2023年度高い順)



## ② 第1部と第2部との比較

第1部と第2部それぞれの上位5位項目では「コミュニケーションスキル」「語学力」「問題解決力」「自己管理能力」の4項目が共通している。異なる1項目は、第1部が「国際的な視野」、第2部が「論理的思考力」である。

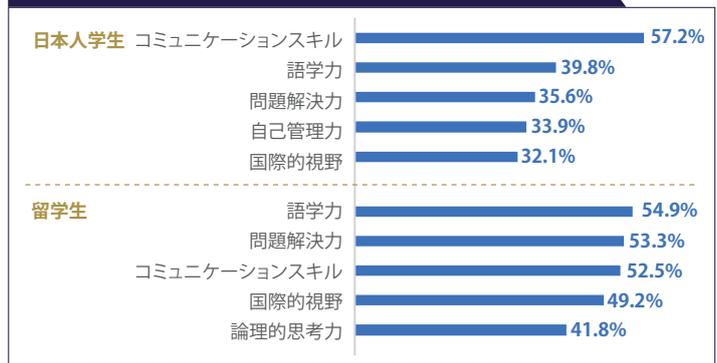
図5 身につけたい力の上位5項目(%・第1部/第2部)



## ③ 日本人学生と留学生との比較

日本人学生と留学生それぞれの上位5項目では、「コミュニケーションスキル」「語学力」「問題解決力」「国際的視野」の4項目が共通している。異なる1項目は、日本人学生が「自己管理能力」、留学生が「論理的思考力」である。

図6 身につけたい力の上位5項目(%・日本人学生/留学生)

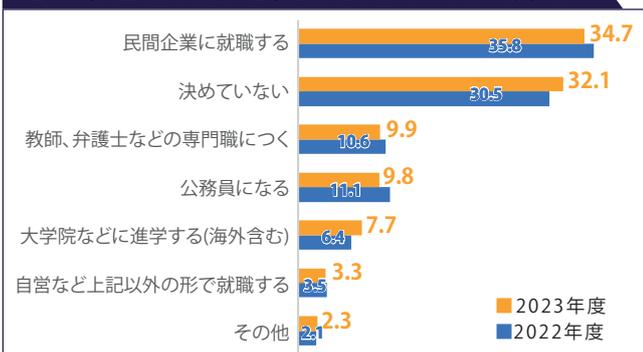


# 3. 将来の進路

今年度の結果は、項目の順位は昨年度で同じく、「民間企業に就職する」(34.7%)の割合が最も高く、2位は「決めていない」(32.1%)。続く「教師、弁護士などの専門職につく」「公務員になる」はほぼ同じ1割弱である。「大学院などに進学する(海外含む)」は7.7%、「自営など上記以外の形で就職する」はわずか3.3%である。昨年度と比べて「決めていない」「大学院などに進学する(海外含む)」の選択率が微増し、一方で各種の就職の選択率は微減である。

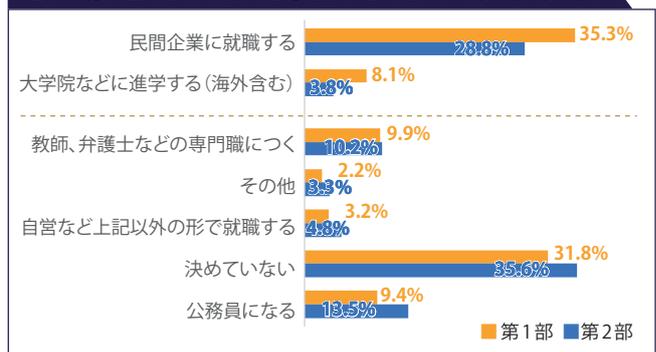
## ① 昨年度との比較

図7 将来どのような進路を考えていますか(%・2023年度高い順)



## ② 第1部と第2部との比較

図8 将来どのような進路を考えていますか(%・第1部/第2部)

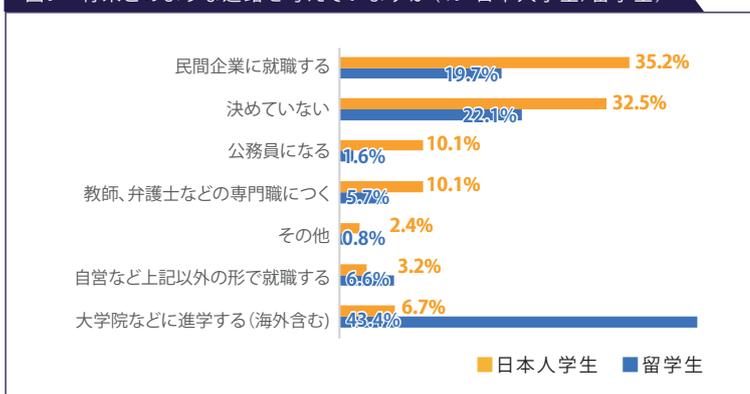


「民間企業に就職する」「大学院などに進学する(海外含む)」では第1部が第2部より割合が高く、「公務員になる」「決めていない」など他の項目では第2部の方が割合が高い。

### ③ 日本人学生と留学生との比較

「民間企業に就職する」「決めていない」「公務員になる」など多数の項目で日本人学生の割合が高い。一方で、「大学院などに進学する(海外含む)」を選択する割合は日本人学生が6.7%に対して、留学生が43.4%で、圧倒的に高い。また「自営など上記以外の形で就職する」での割合も留学生の方が高い。

図9 将来のような進路を考えていますか(%・日本人学生/留学生)

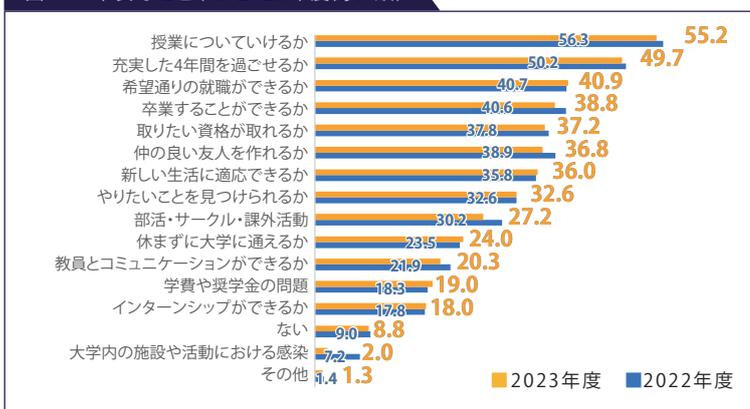


## 4. 不安なこと

### ① 昨年度との比較

設問「現在、どのような不安がありますか」に対し、昨年より多くの項目で選択率が低くなり、全体として不安が減少している。「授業についていけないか」(55.2%)「充実した4年間を過ごせるか」(49.7%)「希望通りの就職ができるか」(40.9%)「卒業することができるか」(38.8%)「取りたい資格が取れるか」(37.2%)が上位5項目となっている。

図10 不安なこと(%・2023年度高い順)



### ② 「授業についていけないか」と他の「不安なこと」との相関

表1に示すように、「不安なこと」として最も選択率が高い項目である「授業についていけないか」は、他の「不安なこと」のほぼ全ての項目と正の相関が示されている。特に「卒業することができるか」「新しい生活に適応できるか」「教員とコミュニケーションができるか」「仲の良い友人を作れるか」との相関がより高い。

表1 「授業についていけないか」と他の「不安なこと」との相関

	授業についていけないか
卒業することができるか	.381**
取りたい資格が取れるか	.155**
休まずに大学に通えるか	.188**
新しい生活に適応できるか	.235**
教員とコミュニケーションができるか	.214**
仲の良い友人を作れるか	.219**
やりたいことを見つげられるか	.190**
充実した4年間を過ごせるか	.189**
希望通りの就職ができるか	.199**
インターンシップができるか	.131**
部活・サークル・課外活動	.199**
学費や奨学金の問題	.131**
大学内の施設や活動における感染	.085**

\*\*、相関係数は1%水準で有意(両側)

### まとめ

- 大学の志望理由:** 昨年度と比べ、今年度の新入生は大学への志望によりポジティブな傾向が見られ、「知名度・イメージがよい」「入試方式・科目が自分にあう」「施設・設備が魅力的」などの項目が微増、「学問分野・研究内容に興味」「カリキュラム・教育制度が魅力的」などが微減である。受験生に対する外形的な吸引力は増しているが、いかに内容を受験生に周知し、魅力にするかが課題である。
- 身につけたい力:** 昨年度より「コミュニケーションスキル」「語学力」「国際的視野」「チームワーク、リーダーシップ」「情報リテラシー」「哲学的な思考」の項目で選択率が微増である。新入生は近年社会に求められる能力を察知し、共感していると読み取れる。
- 将来の進路:** 昨年度と同じく「民間企業に就職する」の割合が最も高く、2位の「決めていない」と合わせて6割強に達している。また、昨年度より「決めていない」「大学院などに進学する(海外含む)」の選択率が微増しているのに対し、各種就職の選択率は微減である。
- 学生類型による比較:** 上記の3点について、第1部と第2部の学生、日本人学生と留学生は共通点がありながら差異も明らかである。例えば、大学の志望理由として「学費が適当であった」「カリキュラム・教育制度が魅力的」は第2部の学生により重要視され、第2部の学生への経済的支援体制は、第2部への進学の大きなインセンティブとなっている。また、将来の進路に関して「大学院などに進学する(海外含む)」を選択する割合は、留学生は日本人学生より圧倒的に高いなどは大きな特徴である。
- 不安なこと:** 昨年度より多くの項目で選択率が低くなり、不安が減少している。昨年度と同じく「授業についていけないか」の割合が最も高く、また、他の「不安なこと」との相関が見られるため、不安に対する総合的な対応が有効であることを示唆している。

※新入生の入試形態による差異についての分析、およびアンケートの学部別、第1部・第2部別の単純集計結果のデータはガールーン/ファイル管理/IR室関連で学内へ公表しています。適宜ご参照ください。